マイスターだより

川西町立小松小学校
令和８年１０月３０日（金）No.34
文責：情野　夏美

第二回　資質・能力向上研究協議会に参加しました！

本研修のねらいは、全国学力・学習状況調査の分析等から見える「授業改善」のポイントをおさえるとともに、自校の授業改善を推進するための方略を考えることでした。授業改善のポイントと、「Two Loop Model」を使った演習を行ってきましたので、皆さんにも情報提供します。ご一読ください。

また、「Two Loop Model」を回覧しますので、ご自分の現在地を教えていただけますと幸いです。ご協力よろしくお願いいたします。

【「理想―現実＝課題」～全国学調にみる、今求められている授業～】

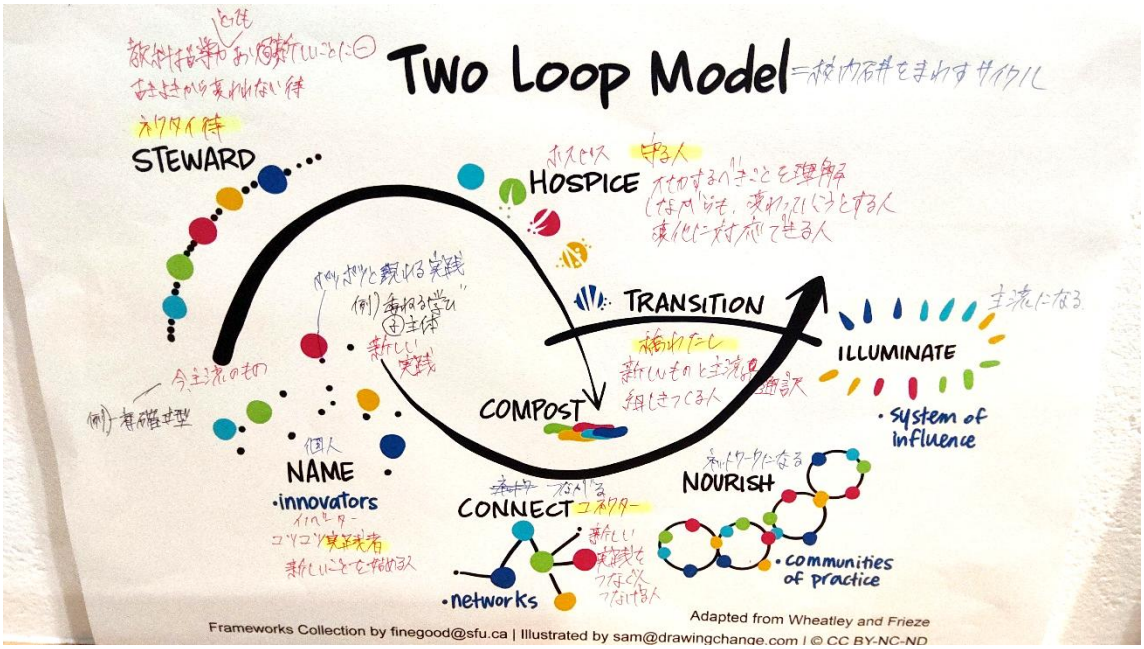
・今求められている力→つねに自分で情報を収集し、自分なりに判断し、しばらく活動したらまた情報を収集し直して修正していくような学習経験が必要になる。（←本校が目指したい自己調整力に似ている！）

・授業づくりのポイント　①単元で授業をつくる
②デジタルとアナログの良さを生かした授業づくり
③子どもに学びを委ねる授業づくり
④学習指導に生徒指導を機能させる

【「Two Loop Model」を使って、校内の授業改善のサイクルを回す戦略を練ろう】

Two Loop Model とは・・・
社会システムや組織の変革を説明するためのフレームワークのこと。
校内研究を回すサイクルとしても考えられる。

みなさんは、校内研究や授業改善を進めていく中で、校内の「ネクタイ侍」「実践者」「コネクター」「守る人」「橋渡し」のどれにあてはまりますか？



どこかが多すぎても、少なすぎてもだめだそうです。校内でバランスが取られていると、授業改善のサイクルがうまく回るそうです。みなさんの自分が思う現在地を教えてください！！